アメリカ穀物協会日本事務所・台湾事務所共催
シンポジウム
美國穀物協會日本辦事處・台灣辦事處協辦 研討會
2015年11月23日　台北、台湾

台頭するアジアの食料確保
亞洲新興經濟體的糧食安全
―日本の畜産業の役割―
日本畜產業的任務

東京大学教授
本間正義

研究会での検討内容
研討會的檢討內容

1. 日本とアジア諸国の今後の畜産物消費・生産動向
   日本及亞洲各國未來畜產品的消費與生產趨勢
   東京農業大学教授　堀田和彦
2. 世界並びにアジアの食肉事情と国産牛肉の輸出
   世界和亞洲的牛肉趨勢與日本牛肉出口
   BRIDGE International Co., ブリッジインターナショナル代表　高橋寛
3. 穀物調達を巡る環境 穀物收購的周邊環境
   丸紅経済研究所所長　美甘哲秀
4. 穀物輸入をめぐる4つのシナリオ穀物進口的4種方案
   宮城大学教授　三石誠司
5. 食料の安全保障と貿易の拡大糧食的安全保障與擴大貿易

前回の研究会報告の論点
上次研討會報告的議題

1. 人口と経済発展：人口和經濟發展

中国とインドが重要だが、中国の需要は成熟期。インドネシア、パキスタン、フィリピン等の動向も重要。飼料穀物は印中以外でインドネシア、ベトナム等に注目。

中國和印度很重要，但是中國的需求到達成熟期。印尼、巴基斯坦、菲律賓等國家的動向也很重要。有關飼料穀物方面，除了印度及中國之外，印尼越南等國家亦須考量。

2. 日本の牛肉自由化：日本的牛肉自由化

自由化で消費が拡大。和牛の生産は維持し、乳用肥育はF1（交雑種）に移行し、高品質化。

因為自由化帶來消費量的擴大。和牛的生產量維持現況，乳用肥育牛隻的數量轉變成高品質化F1(雜交種)。

3. 米国の輸出はHVPへ：美國的出口需HVP

バルクから高価格商品へシフト。日本・EUの地位低下。バイオ燃料・輸出禁止が食料安全保障上重要。日本が米国の「見えざるインフラ」に依存している事実。

從大量移轉到高價位產品。日本和歐盟的地位降低。生物燃料和禁止出口對於糧食安全很重要。日本依賴美國的「隱形基礎設施」是一個事實。

4. 中国の人口と食料：中國的人口和糧食

低成長下の中国の食料動向に注目。高齢化で20年後は日本と同様の年齢構成となるが、食肉消費は維持。

在低成長狀況下中國糧食原料的動向受到矚目，因為高齡化20年之後將變成和日本一樣的年齡結構模式，但是食用肉類的消費量維持現況。

5. 台頭するアジア食料市場と日本の戦略：

亞洲新興經濟體糧食市場和日本的戰略

日本からの農産物輸出は中間層をターゲットにして良質農産物の拡大を。日本の食肉は大きな可能性をもつ。

從日本出口的農產品如果能突破中間層，讓優質的農產品持續擴大，日本的食用肉類具有極大的潛力。

前回の提言 上次的提議

日本の農産物の輸出戦略を構築するならば、

假設要建構日本農產品的出口戰略的話，

1）日中韓や RCEP などの FTA を視野に入れ、特に SPS（衛生植物検疫措置）の国境措置調整とアジア地域での統一を日本が率先して行い、自由な競争環境を整える

要將日本、中國、韓國及RCEP（區域全面經濟夥伴關係）等的FTA（自由貿易協定）列入規範內，特別是SPS（衛生植物檢疫原則）之國境措施修正和全亞洲地區的規範統一等問題，日本應該率先進行，建構自由的競爭環境。

2）その上で日本に比較優位のある加工貿易型の畜産を、自給飼料に輸入飼料原料を取り入れることで効率を上げ、日本の技術で高品質な畜産物の生産を行う

在以上之條件下，將日本比較具有優勢之加工貿易型的畜產，利用進口飼料原料取代國產自給飼料藉以提升效率，並充分運用日本的技術，進行高品質畜產品的生產。

3）日本発の高品質な畜産物の輸出を促進する「プロモーション・センター」をアジアで立ち上げる

為了要促進日本製高品質畜產品的出口，在亞洲地區設置「推廣中心」。

4）旧来型の加工貿易ではなく、より差別化した高品質の製品と、新たな商品の開発でマー ケットを広げる

揚棄舊有的加工貿易模式，生產具有差別化之高品質製品和開發新商品來擴大市場。

5）一方で、投入財としての輸入飼料を活用した加工型畜産を海外でも展開し、モノ・サー ビスの貿易だけでなく、資本、人、技術のモビリティを高め、地球規模で日本人の持つ 能力の活用を図る

另一方面，在國外也擴大進口利用進口飼料來生產加工型畜產，不僅是只有商品和服務的貿易關係，也提高資本、人才、技術的流動性，利用日本的能力在全球推動。

今回の報告書のいくつかの論点
本次報告書的若干議題

1. 日本とアジアの食肉需要：日本和亞洲各國的食用肉類需求

日本での中食需要拡大に合わせた牛肉・鶏肉の対応が必要であり、一方、アジアへの輸出では相手国のニーズの把握とともに、日本の食文化の普及を通じた需要拡大に努める

為了配合日本半成品的擴大需求，須要利用牛肉和雞肉。另一方面，出口到亞洲各國也要把握對方國家的需求，努力透過日本飲食文化的普及擴大需求。

2. 牛肉の国際市況と日本の輸出：牛肉的國際市場和日本的出口

米国の生産減（キャトルサイクル）からの回復が遅く、豪州・EUの生産が低迷しており、また円安の今こそ、日本が牛肉の中国・アジアへの輸出拡大を図るチャンスである

美國的生產減少（cattle cycle 牛週期）因此復甦緩慢，澳洲和歐盟的生產低迷，再加上日幣貶值，日本努力爭取擴展牛肉出口到中國和亞洲各國的機會。

3. 穀物輸出での米国の優位性：美國穀物出口的優越性

生産コストおよびインフラ整備の点で米国の優位性にゆるぎはなく、一方、他国もインフラを整備しつつあり、安定的輸入に不安はないものの、商社等を通じたサプライチェーンの活用で輸入確保を図ることも重要である

在生產成本及基礎設施建設方面美國的優越性堅定不移，另一方面，其他國家也有基礎設施建設，雖然穩定的進口並無疑慮，但透過貿易公司充分利用供應鏈，確保進口安全也是非常重要。

4. 2040年の穀物輸入を巡る4つのシナリオ：

2040年穀物進口的四種方案

食生活･ライフスタイルの変化と社会システムの変化から見えてくる、1億人のマーケットと2千万トンの穀物輸入を確保する信頼関係の構築の重要性

從飲食・生活習慣的改變和社會制度改變的角度來看，為了確保1億人口的市場和2千萬噸的穀物進口，建立信任關係是非常重要的。

5. 食料の安全保障と貿易の拡大

糧食安全與擴展貿易

- 世界の8億の栄養不足人口（飢餓人口）は世界に食料が足りないから発生しているのではなく、彼らの所得が不足していること（貧困問題）による

世界上有8億營養不良的人口（飢餓人口）不是因為世界的食物不夠而發生的，他們是由於收入不足（貧窮）所致。

- 日本が食料輸入を減らしてもそれが飢餓人口の食料にまわるわけではない。むしろ食料援助（資金）を増大させるべきである

就算日本減少糧食進口，這些量也不一定能夠轉變為飢餓人口的食物。應該是需要增加糧食支援（基金）。

- むしろ、国際貿易を拡大することが、世界市場を安定させることとなり、特定の輸出国における生産変動の影響を小さくする

  因此擴大國際貿易，使得世界的市場變得穩定，以減少特定出口國對生產變化的影響。

- 世界の食料問題の解決のためには、途上国における農業投資を拡大し、食料生産を増加させることである

為了解決世界的糧食問題，在發展中國家擴大農業投資，以增加糧食的生產。

- 国際的取り組みの中で、輸入禁止措置の廃止を求めるべきであり、TPPなどの経済連携協定にも盛り込むことが望ましい

在國際組織當中，我們應該尋求取消進口禁令，此外，也希望促成如TPP等的經濟合作協定。

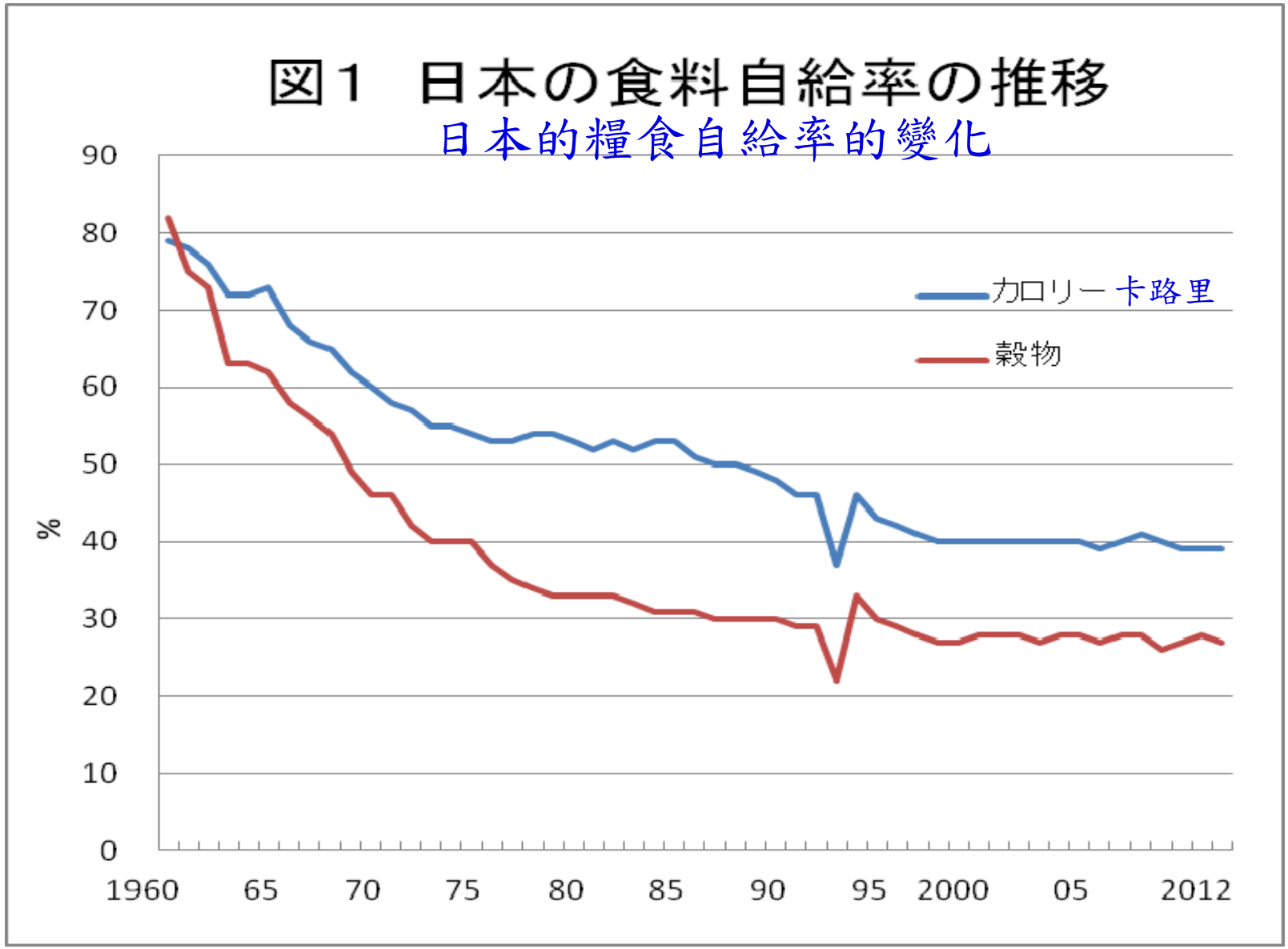


図１　日本の食料自給率の推移
日本的糧食自給率的變化
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
%
1960
65
70
75
80
85
90
95
2000
05
2012
カロリー 卡路里
穀物

資料：農林水産省

人々の安全保障と食料安全保障

人的安全與糧食安全

（1）リアリズム（古典派）：軍事力による主権国家の確保

現實主義（古典派）：用武力確保主權的國家

→ 食料自給論の必然と「食料安全保障のジレンマ」

糧食自給理論的必要性與「保障糧食安全的困境」

（2）リベラリズム（新古典派）：民主主義と自由貿易

自由主義（新古典派）：民族主義與自由貿易

→ 技術・生産基盤の強化の下で輸入自由化の促進

在強化建設技術和生產基礎之下促進進口自由化

(3)グローバリズム(近代派):相互依存と協調的安全保障

全球化(近代派):相互依存與合作的安全

→ 供給源の多様化と地球規模での資源の有効利用

供應來源多樣化和在全球範圍內有效地利用資源

(4)ネオ・リベラリズム(新自由主義的制度主義):成熟した国際制度による協調的安全保障

新自由主義(新自由制度主義):透過成熟的國際體系的合作安全

→ WTO的規律の強化とネットワーク拡大の重要性

加強WTO紀律和擴展網路的重要性

(5)ポスト・モダン(脱近代派):社会諸力による人間の安全保障

後現代(近代派):透過社會力量的人類安全

→ 食料の質、文化・環境に配慮した食料の提供

提供糧食需要考慮糧食的質量、文化和環境

危機対策としての食料安全保障

糧食安全危機的對策

- **偶発的危機**：自然災害や海上封鎖による輸送途絶
  偶發危機：因自然災害和海上封鎖使運送受阻
  →緊急対策備蓄と国内配給体勢の整備
  緊急儲備與開發國內經銷系統

- **循環的危機**：気候変動や豊凶変動による価格高騰
  週期性危機：因氣候變化或欠收變化造成價格高漲
  →緩衝在庫と途上国への援助体制強化
  調節庫存量和加強援助發展中國家

- 政治的危機：米国の大豆禁輸＆対ソ穀物禁輸措置

  政治危機：美國大豆禁運＆蘇聯的糧食禁運

  →食料は武器たりえないが、WTO協定で禁輸措置の容認を廃止すべき

因為不能將糧食視為武器，所以在WTO協定的架構下，應該要廢除禁運措施

- マルサス的危機：人口成長と資源制約による不足

  馬爾薩斯危機：由於人口成長與資源限制造成的不足

  →絶対的不足はないが分配問題が残る

不是絕對短缺而是如何分配才是難題

日本の農産物の輸出戦略

日本農產品的出口戰略

- 食料安全保障のためには国内の農業を振興し、有事の際の食料生産の基盤を維持しておく必要があるが、問題は生産物をどうさばくか

為了保障糧食安全，振興日本國內的農業，雖然發生危機時需要維持糧食生產的基礎，但問題是要如何妥善安排生產物。

- 少子高齢化・人口減で日本の国内市場は縮小するため、日本の農業は海外市場、特に成長著しいアジア諸国への輸出を重点化し、成長産業化を図るべき

因為少子高齡化及人口數減少，日本國內市場呈現萎縮，日本農業對海外市場，尤其以出口到成長速度極快的亞洲各國為重點，應該要規劃為成長產業化。

- アジア諸国への農産物輸出は、超高級品でなく、良質のジャパンブランドで中間層をターゲットにし、所得弾力性の高い畜産物およびその加工品の市場開拓を狙う

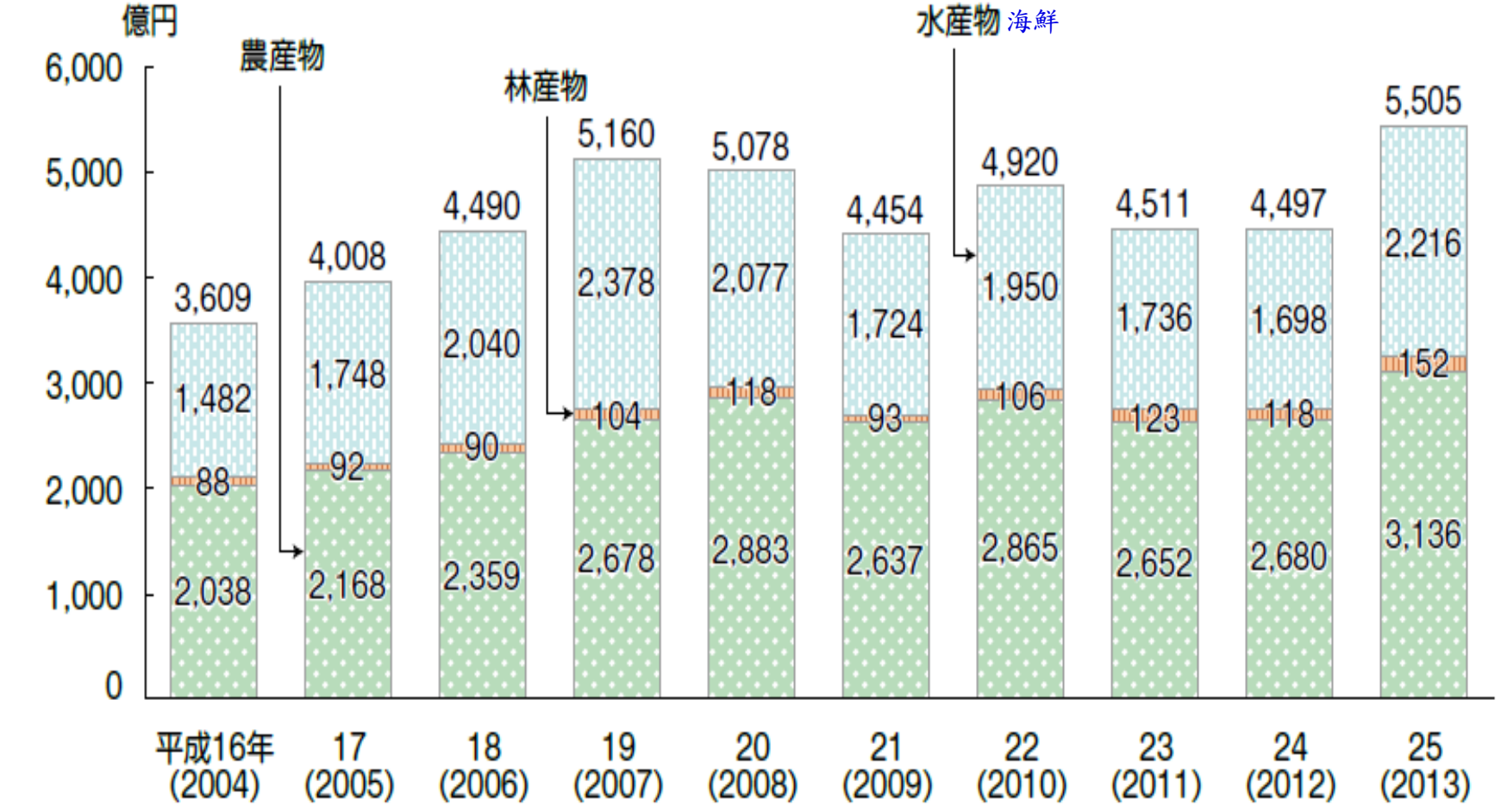
對亞洲各國的農產品出口，定位在非超高級品，主要是品質優良之日本品牌，以爭取中產階級為目標，同時目標鎖定開發獲利較高的畜產品及其畜產加工品的市場。

- 飼料穀物を輸入し、畜産物に加工し輸出する形は、日本の製造業が辿ってきた道であり、農業においても加工貿易型輸出成長モデルは有効である

進口飼料穀物，再加工成為畜產品的模式出口，此乃日本製造業邊走邊摸索出來的一條路，農業即使是以加工貿易型出口增長模式也是有效的。

図2　日本の農林水産物･食品の輸出額の推移

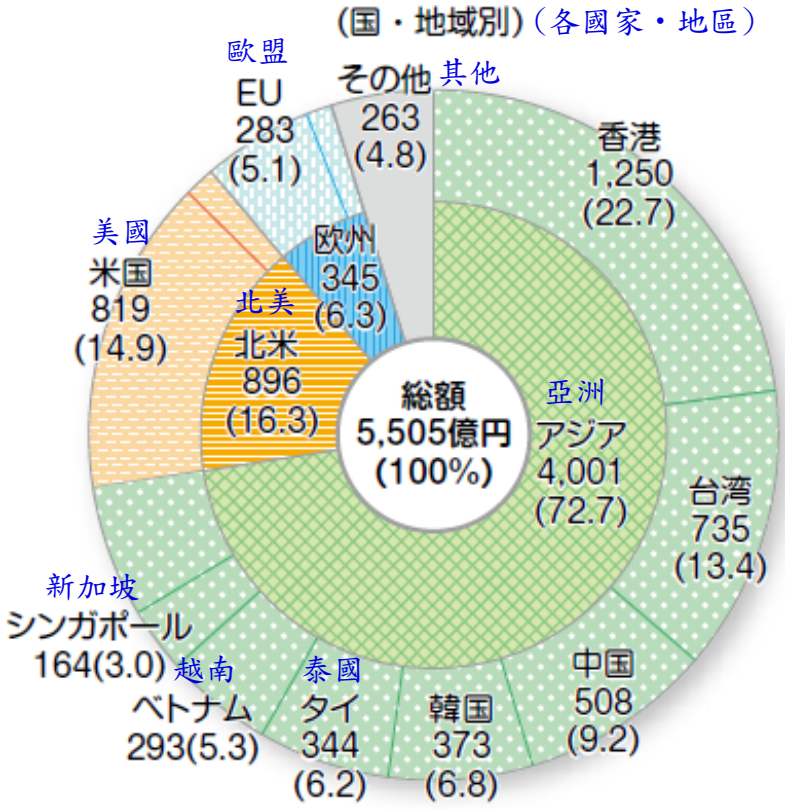
日本的農林水產品・糧食出口金額的變化

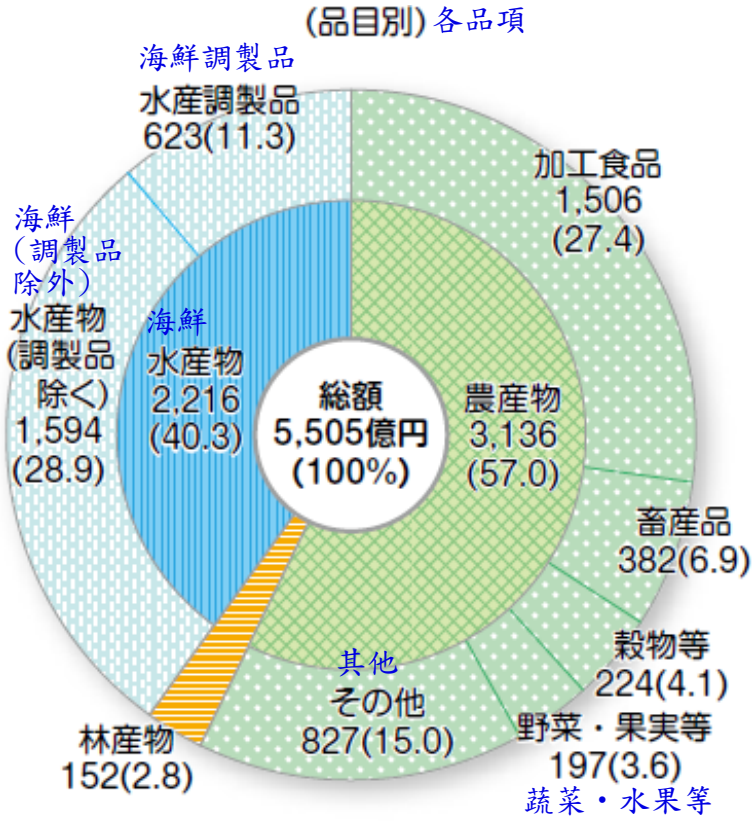


資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省で作成

図3　農林水産物･食品輸出額の主な内訳、2013年

2013年農林水産品・食品出口金額主要明細





資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省で作成
注：(　)内は総額に占める割合。

日本の農産物輸出の現状

日本農產品的出口現況

- 農林水産物輸出は2013年に5千5百億円で、農産物は3千百億円、かつこれは加工食品を含み、素材としての農産物輸出は8百億円

2013年農林水產品出口金額為5仟5百億日圓，農產品是3仟百億日圓，其中包括加工食品，以及作為材料的農產品出口值是8百億日圓。

- アジアで主要な輸出先は、香港、台湾、中国、韓国、タイで、いずれも上位輸出品目は水産物が中心である

亞洲的主要出口目的地為香港、台灣、中國、韓國、泰國，出口到這些國家數量較多的都是海鮮。

- 中国の食料輸入が拡大しているが、東アジア内の農産物貿易で最大のフローは中国から日本への輸出である

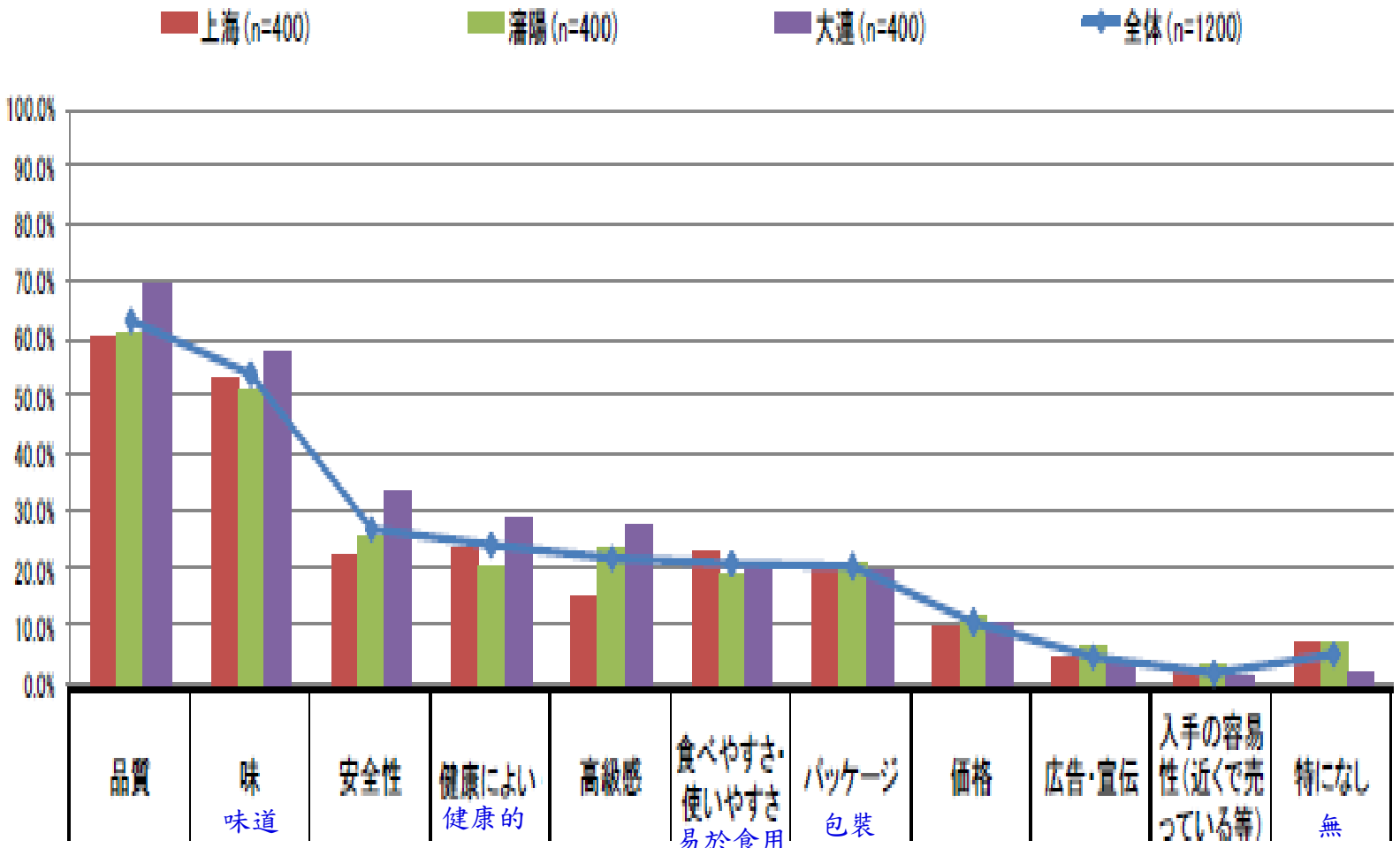
雖然中國不斷的擴大糧食進口，但是在東亞農產品貿易最大的流量卻是從中國出口到日本。

- 日本の農産物･食材の品質のよさは定評があり、需要は見込めるが、問題は価格、すなわちコストダウンが輸出成功の条件である

雖然日本的農產品・食品的優良品質早已享有名譽，儘管預期將會有所需求，但主要問題是價格，如何降低成本乃是出口成功的條件。

図4．中国における日本食品の評価 日本食品在中國的評價

（3点選択アンケート）問卷調查選擇3點

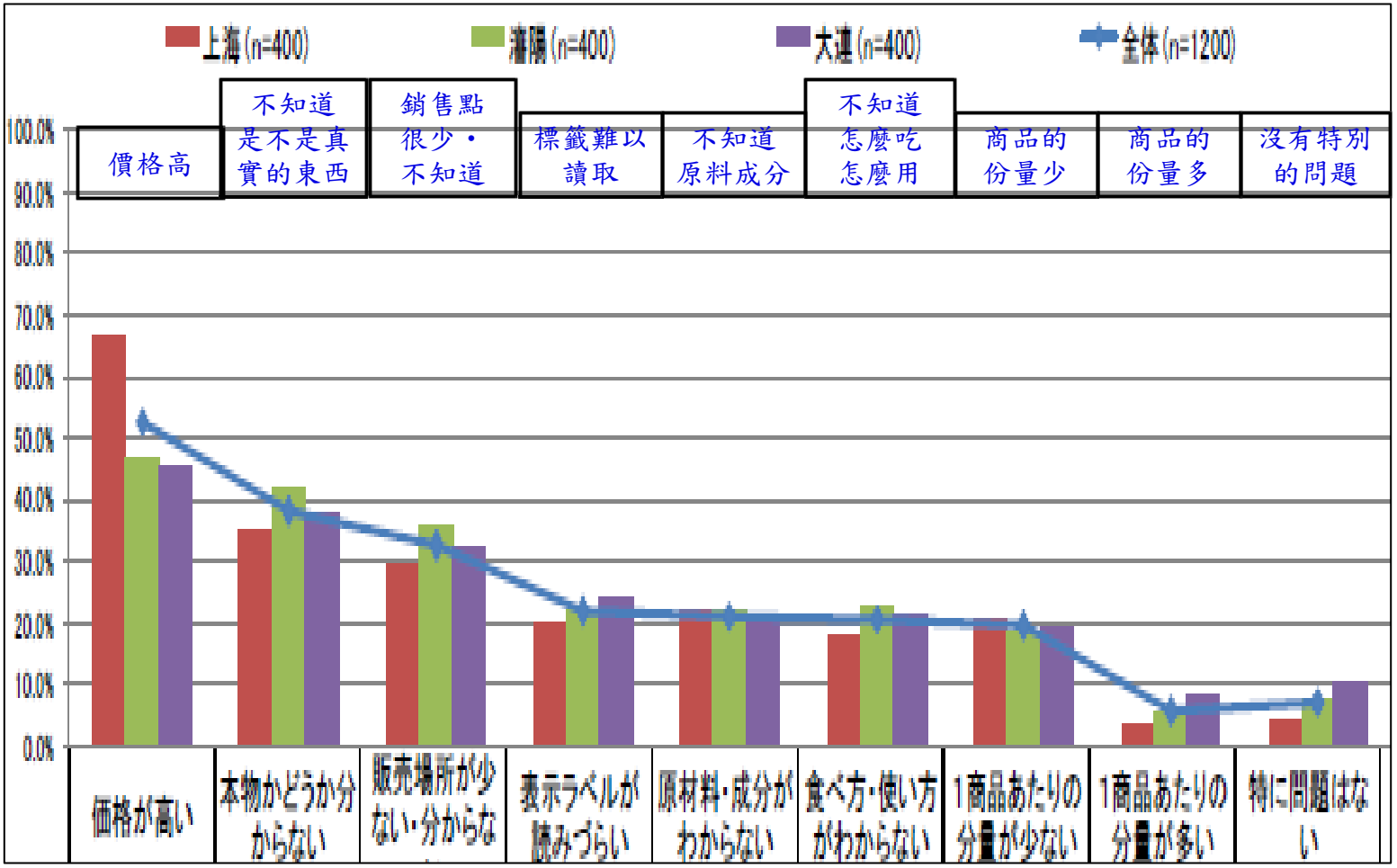


資料：JETRO「遼寧省（瀋陽、大連）における日本産食品にかかる消費者調査」（2012）

図5. 中国人が思う日本食品の問題点

中國人認為日本食品的問題

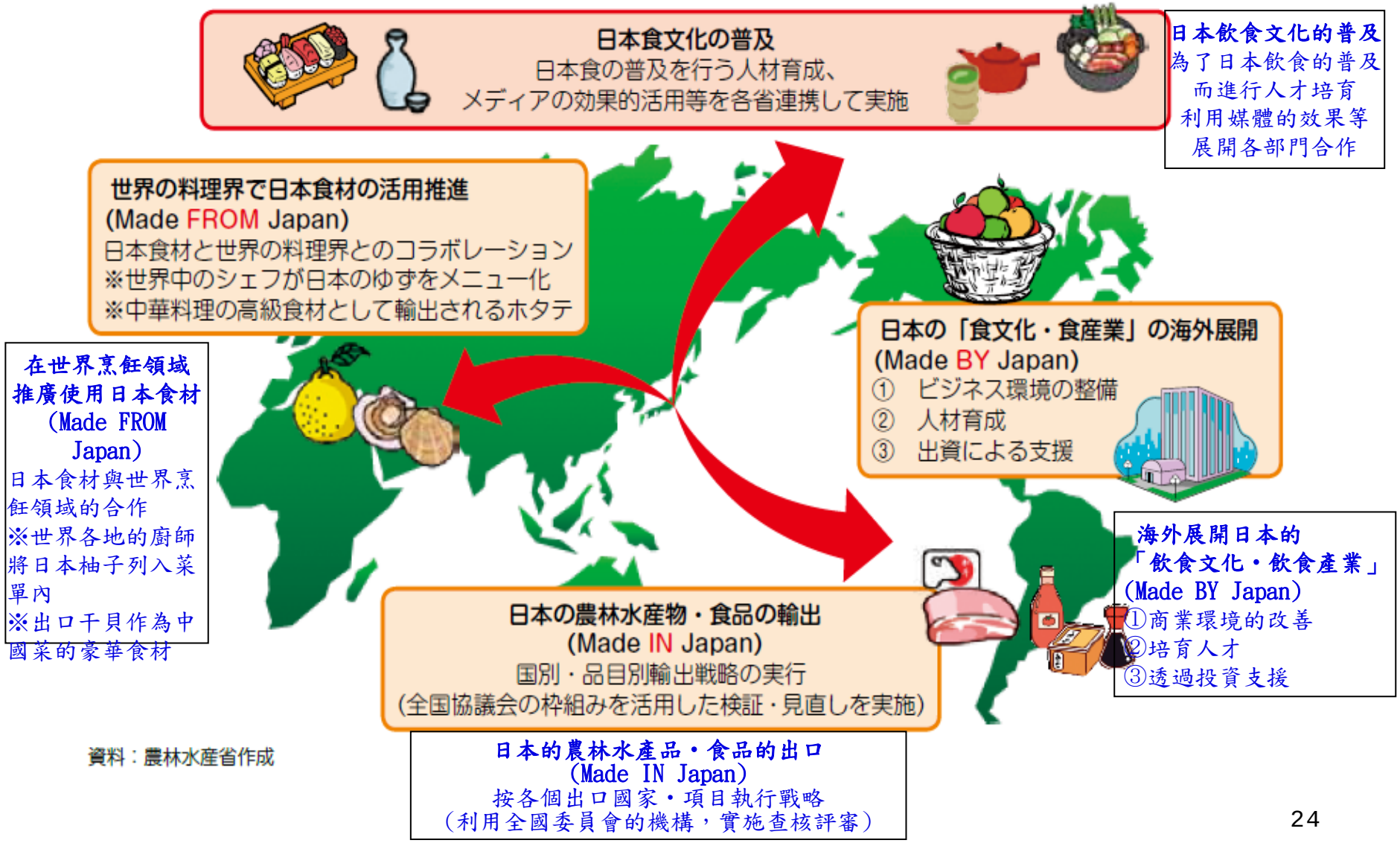
（3点選択アンケート）問卷調查選擇3點



資料：JETRO「遼寧省（瀋陽、大連）における日本産食品にかかる消費者調査」（2012）

日本の農産物輸出戦略(FBI)の概要

日本農產品的出口戰略(FBI)概要



資料：農林水産省作成

まとめ　總結

- 食料安全保障は国際的視点が重要であり、特に途上国の農業投資拡大に協力すべき

糧食安全是國際上非常重視的一環，尤其是在發展中國家擴大農業的投資合作。

- 食料自給率にこだわるとそれ自体が目的化する「ジレンマ」に陥るので、供給源の多様化と国際協調で安定的な食料の確保を図る

如果堅持糧食自給率，這個目標會使自身陷入「進退兩難」，因此供給來源多樣化以及與國際合作主要目的是確保糧食的穩定。

- 国内生産の基盤整備で農業の生産性を向上させ、輸出振興を図ることも食料安全保障の一環である

在國內生產的基礎設施建設，為了提高農業生產力，實現促進出口也是糧食安全的一部分。

- 特に成長著しいアジアの中間層をターゲットに、付加価値の高い畜産物の輸出拡大の可能性が大

尤其是以顯著成長的亞洲中產階級為目標，擴大出口高附加價值畜產品的可能性較大。

- 低コスト実現のためのバイテクの活用や、米国との関係強化で穀物輸入の拡大確保が重要である

利用生物科技實現低成本，並加強與美國的關係，以確保擴大穀物進口是很重要的。

米国穀物業界への提言

- 米国内インフラの持続的活用によるバルク穀物の高品質で安定した供給の継続

可持續利用美國的基礎設施，持續穩定供應高品質的散裝糧食。

- バルク輸送の船舶大規模化などによるさらなる輸送効率化によるコストダウン

由於散貨運輸使用大型船舶等，透過進一步的運輸效率使得成本降低。

- リアルタイムでの穀物生産･生育状況の情報提供

在RealTime提供穀物生產和生長狀況的訊息。

- バイオテクノロジーによる機能性付加穀物･食品の創生

因為生物科技，創造了附加功能的穀物與食品。

- トレーサビリティや個別の生産契約に基づく高付加価値穀物の委託生産市場の創生

由於生產履歷和個別生產契約，創造高附加價值作物的委託生產市場。